

## 後期計画の策定に向けた地域検討会議（第4回）盛岡ブロック② 会議録

### 【盛岡ブロック②：盛岡市、滝沢市、紫波町、矢巾町】

○ 日 時：令和2年8月28日（金）14時00分～16時00分

○ 場 所：サンセール盛岡 3階 大ホール

○ 出席者

① 会議構成員

盛岡市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

滝沢市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

紫波町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

矢巾町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

盛岡教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般7人、報道2人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

（1）後期計画の基本的な考え方等について

（2）後期計画の具体的な取組について

【県教委】

- ・ まず、「後期計画の基本的な考え方等」と「後期計画の具体的な取組」について、事務局から説明させていただき、その後、御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No.1「新たな県立高等学校再編計画後期計画（案）の概要」、資料No.3「地域検討会議等で寄せられた意見の反映状況等」、資料No.4「盛岡ブロックにおける大規模統合について」に基づき説明。

【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 今般の後期計画案で示された4地域の統合計画について、その実施時期を伺いたい。

【県教委】

- ・ 資料No.1の3頁「8 後期再編プログラム総括表」にお示ししているように、二戸ブロックにおける統合は令和6年度、盛岡ブロック及び宮古ブロックにおける統合は令和7年度の実施を計画している。県南地域における統合は広範な地域にわたること等も踏まえ、令和7年度以降の実施を計画している。

【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 盛岡ブロックの統合より先に行われる二戸ブロックの統合の状況を踏まえ、その成果を盛岡ブロックの統合に生かすことはあるものか伺う。

#### 【県教委】

- ・ 二戸ブロックの統合は、福岡工業高校の入学人数が減少している状況にあって、今後さらに同ブロック内の中学校卒業予定者数の減少が見込まれていることから、工業の専門的な学びを地域に残しながら学校の活性化を図ることを主たる目的として行うものである。盛岡ブロックの統合とは趣旨が異なるため、基本的には関連性の低い統合であるものと考えている。

#### 【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 盛岡ブロックの統合については報道でも大きく取り上げられており、市民の関心も高い。これまで市の活性化に貢献してきた盛岡南高校が統合されることを受けて、中学生への影響や今後の地域づくり等について盛岡市議会でも議論されたところである。
- ・ 当市長も、盛岡南高校と不来方高校の統合計画については、今後市内の中学校卒業予定者数の減少が見込まれる状況ではやむを得ないものであると理解を示したところ。教育委員会としては、特に盛岡南高校の近隣の中学校に在籍する生徒にとって、進路選択の幅が狭くなる等の影響が大きいものと捉えており、子どもたちの思いや不安を受け止めながら、よりきめ細かな進路指導を行う必要が生じるのではないかと答弁したところ。
- ・ ついては、子どもたちの進路選択の参考となるように、また、地域にとっても希望が持てるように、盛岡南高校と不来方高校の現在の魅力をさらに高めていくということについてさらに強調するべく、統合の具体的な内容や詳細について情報を発信し、周知していただきたい。

#### 【侘美 紫波町教育委員会教育長】

- ・ 基本的には、県教育委員会が示した後期計画案を支持したいと考えている。特に、紫波郡近隣の地区の学校が維持されたことにより、多くの選択肢が確保されることとなり、紫波郡の子どもたちにとってはとても良い内容になっていると考える。
- ・ 他方で、後期計画案では、総合学科高校の取扱いについてあまり触れられていなかったことが気懸かりである。紫波総合高校は今年度から1学級減となったが、今年度入試でも入学人数は定員を大きく下回っており、この傾向が続くと同校の小規模化が進むのではないかと危機感を持っている。いわゆる普通科志向を打破しようとする国の動きもあることから、総合学科高校の学びの充実や魅力向上についてもよろしく願いたい。
- ・ 中学校段階でも生徒が将来就きたい職業は多様化しており、特別な支援を要する生徒も増加している。そのような生徒の進路実現に向けた学びを保障していくことが今後必要であると考えており、高校入学後に展開される魅力ある教育活動に加えて、高校卒業後の進路希望の実現についても充実した取組を行っていただきたい。

#### 【和田 矢巾町教育委員会教育長】

- ・ 今般の後期計画案において、県全体としての課題である盛岡地区への志願者の集中に対応した盛岡地区の統合計画が示されたことについて支持したい。また、「生徒の希望する進路の実現」と「地域や地域産業を担う人づくり」という基本的な2つの考え方についても賛同する。
- ・ 盛岡南高校と不来方高校には県全体から多くの生徒が志願している現状を踏まえ、両校の統合後は、多くのニーズに対応する学校としてほしい。
- ・ 特別な支援を要する生徒は増加しており、十分な対応を行っていただきたい。

#### 【千葉 盛岡市教育委員会教育長】

- ・ 現在の中学校1年生のうち、令和5年度に盛岡南高校や不来方高校に入学した生徒は、令和7年度から統合校に移り、統合校を卒業することとなる。当該生徒たちが進学先として両校を選択するうえで不安にならぬよう、適時適切に情報発信を行うようお願いしたい。

- ・ 統合校に対して手厚く教員加配を行い、魅力的な教育活動を支援するようお願いしたい。

#### 【県教委】

- ・ 盛岡地区における統合について、賛同の御意見をいただいた。統合の内容等について、中学生や保護者に対して適時適切な情報発信に努めて参りたい。
- ・ 新設校の魅力を高めるための具体的な統合の在り方等について、統合対象校の校長等、PTA及び同窓会、並びに所在地の教育委員会及び地域の中学校の代表者等により構成される統合検討委員会等の場で検討を進めていきたい。
- ・ 総合学科の魅力の一つに、1年次の「産業社会と人間」の学習において、自分の生き方の探求を通じて、職業を選択し決定する場合に必要な能力と態度を養った後に、自らの進路希望に応じた教科・科目を選択して学べることがある。このような総合学科の魅力について、中学生や保護者に情報発信して参りたい。
- ・ また、今回お示しした盛岡地区における統合により盛岡市内の高校の募集定員が減少することから、紫波郡の中学生のうち、紫波総合高校への進学を視野に入れる生徒も増加するのではないかと考えている。

#### 【高橋 矢巾町長】

- ・ 盛岡南高校は不來方高校よりも先に設置されており、盛岡南高校が開校した当時の地域住民の高揚感に思いを馳せると、盛岡南高校の統合が計画されたことについて、同校の同窓会等への丁寧な説明を行う責任が県教育委員会にはあるのではないかと。
- ・ 盛岡地区の統合計画については支持するものであるが、体育ばかりでなく、芸術等の人材育成もしっかり行ってほしい。
- ・ また、岩手医科大学が隣接しているという立地状況も考慮し、新設校においては、医師等の医療従事者を育成するための環境整備を検討していただきたい。一関第一高校と附属中学校で行われているような併設型中高一貫教育を新設校に導入し、体育、芸術、大学進学という幅広い分野のハイレベルな進路希望に対応した学びの環境を整備するといった、まさに先導的な取組が行われることを期待する。

#### 【山下 紫波郡中学校長会会長（矢巾町立矢巾北中学校長）】

- ・ 中学生の高校進学に対する志向も多様化し、特別な支援を要する生徒も増加している中で、高校の選択肢が減少することを心配している。これまで中学生の進路指導に携わってきて、盛岡南高校があることによって助けられた経験が多数あったところである。
- ・ また、部活動においては、様々な競技で盛岡南高校と不來方高校が競い合うことによりレベルアップしてきたと感じており、両校が統合されてこれまでの良好なライバル関係がなくなることに疑問を感じる。
- ・ 現在の中学校1年生のうち、盛岡南高校や不來方高校に入学した生徒は新設校の卒業となることについては、中学生や保護者に対してきちんと説明していく必要があると考える。
- ・ 資料No.4の「2 学校統合の内容」に、令和7年度に両校が統合した際には全校で29学級という大規模校になるとある。全校生徒が現在の不來方高校校舎で学ぶことを想定しているようであるが、教室数は足りるものなのか。

#### 【県教委】

- ・ 不來方高校が開校した当初は1学年10学級（募集定員450人）であり、全校で30学級（定員1,350人）収容できるように設計されているため、新設校の規模に対しても教室数等は十分に対応できるものと考えている。

- ・ 後期計画案について、盛岡南高校PTA等に対し個別の説明会を実施する予定もあるところであり、盛岡南高校と不来方高校の統合の内容等について御理解いただけるよう、説明して参りたい。
- ・ 今後の岩手の文化やスポーツ分野を担う人材育成に向けた新設校の在り方について、県の文化スポーツ部とも意見交換を行いながら検討して参りたい。
- ・ 盛岡南高校と不来方高校がともに存在することで進路選択の幅が広がるという御指摘をいただいた。他方で、この先の少子化に対応した教育環境を整備するために盛岡市内の各高校の学級減を行っていくとした場合、規模が小さくなる学校が増加してしまい、生徒の多様な進路希望に応じた教育環境の確保が難しくなることもあり、今般の盛岡地区における統合計画案を作成したものである。
- ・ 他の県立高校や私立高校でも、進学やスポーツで特色を出すような取組を行っているところであり、そのような学校と良い意味での競争を図り、互いのレベルアップに繋がるようにしていきたい。

#### 【兼平 株式会社兼平製麺所取締役社長】

- ・ 参考資料No.4-2に示されている令和2年度入試の状況によると、盛岡地区の進学校でも志願倍率に偏りが見られる。志願倍率が低い学校は閉校し、その学級数を盛岡地区の他の進学校に振り分け、8学級規模の進学校を設置してレベルアップを図ることも一案ではないか。
- ・ また、閉校にした学校の土地を民間に売却し、教育環境整備の予算に充てる等、これまでにない発想を取り入れることを提案させていただきたい。

#### 【県教委】

- ・ 県立高校再編の取組が始まって約20年経つが、今回初めて盛岡地区の統合案をお示したところである。令和7年度までの後期計画が終了した後の次期計画においても、盛岡ブロックについては学校統合の可能性も含めて検討されるものと考えている。御提案いただいたことも参考にしながら研究して参りたい。

#### 【鈴木 紫波町立紫波第一中学校PTA会長】

- ・ 盛岡南高校と不来方高校の統合により、地域社会に与える恩恵や地域社会の将来像についてどのように考えているものか伺いたい。

#### 【県教委】

- ・ 資料No.4の「3 岩手で活躍する人材の育成」にお示した3つの目標等は、いわて県民計画(2019~2028)や岩手県スポーツ振興計画、岩手県文化芸術振興指針に掲げられている目標や指針であり、県教育委員会としてもこのような県の施策と歩調を合わせた取組を行っていきたいと考えているところである。
- ・ 少子化が進行する状況下にあつて既存の学校を維持していくことにより、個々の学校の規模が縮小し、教員定数の減少、及び教育活動上の制限の増加等を招き、学校の活力が弱まること懸念される。学校を統合し、子どもたちの多様な進路希望に応えられる一定の規模を確保した学校を整備することにより、将来にわたって岩手を支える人材を輩出することができるものと考えている。

#### 【富岡 株富岡鉄工所代表取締役】

- ・ 資料No.4に示されている現状の課題に鑑みると、盛岡地区における統合についてはやむを得ないものと理解するところである。

- ・ 紫波総合高校は数年前まで志願倍率が高かったが、令和2年度入試では、学級減により募集定員が減少したにもかかわらず大きく定員割れしており、残念に思っている。紫波町は自転車競技が盛んなまちであり、紫波総合高校の自転車競技部も各種大会で活躍しているということをもっとアピールする視点を学校づくりに取り入れてみてはいかがか。
- ・ 工業の学びの確保の観点から、盛岡工業高校の学科改編・学級減が見送られたことを高く評価している。岩手県における工業高校のセンタースクールとしての役割を担う盛岡工業高校は、今後も工業の学びを幅広く備えた教育環境にあるようお願いしたい。
- ・ 盛岡ブロック外の学校のことで恐縮であるが、設備関連業界を代表して意見を申し上げさせていただきたい。かつての宮古工業高校に設置されていた「建築設備科」は、同校が宮古商業高校と統合された際に「機械システム科」と「電気システム科」に再編された。設備関連業界では、県内工業高校の設備関連学科卒業生の雇用に頼っている現状にあることから、今般の後期計画案においても、水沢工業高校の「設備システム科」が県南地域における大規模な工業高校の新設に当たって再編されず、設備関連の学科が存続するようお願いしたい。

#### 【阿部 滝沢市商工会会長】

- ・ 後期計画案の基本的な考え方や具体的な取組、及び盛岡地区における統合については了解した。
- ・ 参考資料No.3に示されているブロック間交流のデータによると、他ブロックから盛岡ブロックへの転入が280人ほど超過しているということであるが、盛岡ブロックには私立高校も多く所在していることから、盛岡南高校と不来方高校を統合しても、転入超過の状況はあまり変わらないのではないかと印象を持つ。私立高校への転入者を除いた県立高校だけの転入状況について精査する必要があるのではないか。
- ・ 今般のコロナ禍により、学校のICT環境の重要性が再認識されていることから、ICT環境整備に向けた県教育委員会の方針を伺いたい。

#### 【県教委】

- ・ 県南地域における大規模な工業高校の新設計画案は、現在、水沢工業高校に設置されている「設備システム科」の学びを存続させること等を趣旨としているものである。
- ・ 県教育委員会は、私立高校を直接的に指導、監督するような権限は持っていないが、私立高校の代表者とは年に2回会議を行っており、その中で、地域検討会議等において頂戴している私立高校の定員に関する御意見等を伝えているところである。
- ・ 国もICT環境の整備に向けて様々な事業を行っているところであり、県としても国の動向を踏まえ、参考資料No.1にお示ししているような各種事業を推進し、ICT環境の整備、拡充を行っていくこととしている。

#### 【熊谷 紫波町長】

- ・ 紫波総合高校設立から時が経ち、現在の中学生在が総合学科高校へ求めるものが変化しているのではないかと感じている。県全体で、総合学科高校の在り方について再考が必要なのではないかと感じている。
- ・ 本町にゴルフ場が所在することを生かし、紫波総合高校にゴルフ部を創設して魅力向上を図ってはいかがかという御意見や、本町特産のぶどうを生かし、ワイン醸造等を学ぶ系列の設置を検討できないものかといった御意見をいただいているところである。従来の発想を変えて新たな取組を行い、紫波総合高校の魅力向上を図る時期に来ているのではないかと感じる。

**【鎗 矢巾町立矢巾北中学校PTA代表】**

- ・ 盛岡南高校と不来方高校の統合計画案について、矢巾町PTAとしては深刻な問題として受け止めている。
- ・ 両校の統合は、スポーツの学びに特長がある盛岡南高校と、芸術の学びに特長がある不来方高校を一つの学校にすることであり、工業学科高校と農業学科高校を統合することと同様に、特色がぼやける統合になるものとする。
- ・ 矢巾町における中学校卒業生の今後の推移も横ばいの状況であり、高校進学の実現を確保するという観点からも、統合計画案には反対である。

**【櫻 新岩手農業協同組合滝沢支所支所長】**

- ・ 生徒減少の状況に鑑みれば、盛岡南高校と不来方高校の統合についてはやむを得ないものとする。
- ・ また、大学進学を目指す生徒の希望に応えるためにも、大規模な普通高校を維持し、各教科の専門家を配置できる環境を整備することも重要なことであるとする。
- ・ 農業高校や農業教育の充実についても取り組んでいただきたい。

**【佐藤 盛岡市PTA連合会会長】**

- ・ これまでの地域検討会議でも、盛岡ブロックにおいては私立高校の募集定員や定員超過の状況について取り上げられてきたことから、私立高校の入試の状況等に関する資料もあれば議論の参考になるものとする。
- ・ 盛岡南高校と不来方高校の統合計画の具体的内容について、例えば、令和4年度から盛岡南高校の学級減が段階的に実施されることや、令和5年度に両校へ入学する生徒は新設校での卒業となること等、中学生や保護者の不安にならないよう十分な情報発信をしていく必要があるものとする。
- ・ 後期計画の基本的な考え方の一つである「地域や地域産業を担う人づくり」に関して、高校卒業後に県内に就職している人数や、県外に就職している人数等、具体的なデータがあれば今後の参考になるものとする。

**【熊谷 盛岡市中学校長会会長（盛岡市立飯岡中学校長）】**

- ・ 後期計画案の基本的な考え方や具体的な取組について賛同するものである。盛岡南高校と不来方高校は現在でも魅力的な学校であり、両校が統合することによってさらに魅力的な学校が誕生するものと期待するところである。
- ・ 両校の統合により新設される学校ではどのようなことを学び、卒業する際にはどのような進路がひらかれるものか、さらに具体的に示していただければ、中学校での進路指導や中学生の進路選択に役立つものとする。

**【山口 滝沢市PTA連絡協議会（滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長）】**

- ・ 盛岡南高校と不来方高校の統合計画については理解するものである。
- ・ 他方で、令和5年度に盛岡南高校や不来方高校に入学した生徒は、高校3年生のとき（令和7年度）に統合となった際、部活動での大会出場はどのようになるものか伺いたい。

**【県教委】**

- ・ 岩手県高等学校体育連盟や全国高等学校体育連盟の取り決めでは、統廃合の対象となっている学校においては、合同チームにより県大会、ブロック大会及び全国大会に出場できることとなっており、統合後は、新設校のチームで出場できるものである。

- ・ 両校は校舎も隣接しており、統合前から合同での練習は可能なものと考えており、部活動に関する詳細についても、両校の関係者によって構成される統合検討委員会において検討して参りたい。

**【熊谷 滝沢市教育委員会教育長】**

- ・ 後期計画案は、これまでに各地で開催された地域検討会議等における様々な意見を反映しており、素晴らしい出来であると評価する。特に、人口が減少する地域に所在する1学級校等の小規模校へも配慮しつつ、県政課題である医師等の確保に向けて7学級校等も維持するとしたことを評価したい。
- ・ また、前期計画において示されていた再編に関する基準も継続すると明記されており、この方針を踏まえた高校再編を推進していただきたい。

**【阿部 矢巾町農業再生支援協議会幹事長】**

- ・ 盛岡南高校と不来方高校の統合計画案はやむを得ないことと考える。現在の中学校1年生が高校入試に臨む際に不安が生じないように、適切な情報発信が必要になるものとする。
- ・ 参考資料No.4-2にも示されているように、生徒の減少に伴い、農業を志望する生徒も減少していることに危機感を持っている。この度の後期計画案には、農業高校や農業科の再編は盛り込まれていないが、農業教育の将来を見据え、農業教育の充実や農業高校の魅力向上、農業の担い手育成の取組等について、今のうちから検討し、しっかりと取り組んでいただきたい。

**【富岡 株富岡鉄工所代表取締役】**

- ・ 盛岡南高校と不来方高校の統合が行われた場合、盛岡南高校の跡地の利活用について方向性が決まっているのであれば伺いたい。
- ・ 盛岡工業高校の施設・設備は老朽化が進んでおり、交通の便も悪い。盛岡南高校の跡地に盛岡工業高校が移転し、施設・設備等が更新されれば、工業教育の充実や担い手の育成が促進されるのではないかと考えるところである。

**【県教委】**

- ・ いただいた御意見を参考にしながら、県教育委員会だけでなく各部局等も交えて検討して参りたい。

**【千葉 盛岡市教育委員会教育長】**

- ・ 義務教育（主に中学校）においては、望ましい勤労観、職業観の育成に向けたキャリア教育に力を入れているところであり、このことは、後期計画案の基本的な考え方の1つ目に掲げられている「生徒の希望する進路の実現」にも深く関連するものと考えている。義務教育としても、後期計画案の基本的な考え方に歩調を合わせて取り組んでいきたいと考えており、様々な面で県とも連携していきたいと考えているところである。
- ・ ハイスクールガイドに、各学校で学ぶことによってどのような力が身に付き、何ができるようになるのかということについて、掲載してもいいのではないかと考えている。基本的な考え方の2つ目に掲げられている「地域や地域産業を担う人材育成」という観点から、一般的な力の習得ではなく、学校による差異や特色を明確にした記載をする方がいいのではないかと考える。

**【県教委】**

- ・ 後期計画案の基本的な考え方や具体的な取組について、概ね、賛同や支持するという御意見を頂戴するとともに、統合対象校のPTAや同窓会に対して説明責任を果たすべき等の御意見

を頂戴したところ。

- 統合により学校数が減ることから、その一面においては選択肢が狭まるとも見えるが、教育課程の幅の広がり、学校行事や部活動における活動の広がりという観点においては、むしろ統合によって選択肢が広がるものと考えている。
- 本日いただいた様々な御意見を踏まえながら、今年度内を目途に、後期計画の策定を進めていきたいと考えている。
- 今後とも、本県教育の振興のため、一層の御理解と御協力を賜るようお願い申し上げます。

## 後期計画の策定に向けた地域検討会議(第4回)【盛岡ブロック②】

## 出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	盛岡市	兼平 賀章	株式会社兼平製麺所 取締役社長	
2		佐藤 康之	盛岡市PTA連合会 会長	
3		千葉 仁一	盛岡市教育委員会 教育長	
4	滝沢市	三河 孝司	滝沢市 副市長	
5		阿部 正喜	滝沢市商工会 会長	
6		櫻 光治	新岩手農業協同組合滝沢支所 支所長	
7		山口 恒司	滝沢市PTA連絡協議会 (滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長)	
8		熊谷 雅英	滝沢市教育委員会 教育長	
9	紫波町	熊谷 泉	紫波町長	
10		富岡 靖博	㈱富岡鉄工所 代表取締役	
11		鈴木 博	紫波町立紫波第一中学校PTA 会長	
12		侘美 淳	紫波町教育委員会 教育長	
13	矢巾町	高橋 昌造	矢巾町長	
14		阿部 正明	矢巾町農業再生支援協議会 幹事長	
15		佐々木 和久	矢巾町建設業協議会 会長	
16		鍋 洋高	矢巾町立矢巾北中学校PTA 代表	
17		和田 修	矢巾町教育委員会 教育長	
18	地区中学校長代表	熊谷 司	盛岡市中学校長会 会長 (盛岡市立飯岡中学校長)	
19		山下 彰	紫波郡校長会 会長 (矢巾町立矢巾北中学校長)	

## 【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考	
20	県議会議員	軽石 義則	岩手県議会議員		
21		柳村 一	岩手県議会議員		
22		臼澤 勉	岩手県議会議員		
23		武田 哲	岩手県議会議員		
24		米内 紘正	岩手県議会議員		
25		高橋 但馬	岩手県議会議員		
26		吉田 敬子	岩手県議会議員		
27		千葉 絢子	岩手県議会議員		
28		斉藤 信	岩手県議会議員		
29		小西 和子	岩手県議会議員		
30		上原 康樹	岩手県議会議員		
31		県立高等学校	佐藤 有	盛岡第一高等学校長	
32			小原 貴人	盛岡第二高等学校長	
33	菊池 治		盛岡第三高等学校 副校長		
34	五日市 健		盛岡第四高等学校長		
35	片岡 順一		盛岡北高等学校長		
36	阿部 圭次		盛岡南高等学校長		
37	熊谷 和浩		不来方高等学校長		
38	鈴木 卓		杜陵高等学校 副校長		
39	神山 秀市		盛岡農業高等学校長		
40	南館 秀昭		盛岡工業高等学校長		
41	千葉 尚		盛岡商業高等学校長		
42	馬場 香樹		紫波総合高等学校長		

## 【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
43	県教育委員会 事務局	梅津 久仁宏	教育次長	
44		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
45		中川 寛敬	学校教育課総括課長	
46		須川 和紀	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
47		渡辺 謙一	教育企画推進監	
48		森田 竜平	学校調整課高校改革課長	
49		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
50		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
51		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
52		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	